

聖心花

027
66
2

027
86
2



同津權馬渡りのりさるるの
好あまのさるる小舟のりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる
りさるるりさるるりさるるりさるる

志終へや〜もき〜夏も色〜り彼
二日坊〜も〜古〜り〜た〜り〜權馬〜也〜
き〜も〜の〜も〜の〜生〜也〜も〜
り合〜も〜も〜も〜も〜也〜也〜也〜
苑也柙〜も〜も〜も〜も〜花〜も〜も〜の
り〜

重厚

俳諧者傳于芭蕉之五世之系
者呼於千直系香者學於
志野流為蛸谷專齋之內人
去々
鳴呼亦多乎哉

紫野浙江書

むかひ

聖の口と

まいのち

禮馬



夜話亭遺吟

見といやれを忍住可神々雲の暮
と海を川と空を山とや
新玉の香を根よるる若菜の乳
かりの海や暮のまを梅一枝
人新乃水に揺るやわらわの心
鐘の音もまをまをるる花の車
まをる浪よ河漕乃余をまをれ

淡きやうら　　くさの青のりきくは
維多きくくや　　ろ切なまき谷のそを
赤きくくや　　まのそくぬ砂そけ
まのや月よりくく　　松りく
まの根ま時代のほくく

夏

希くぬまの伽羅まきくや　　まの藤
忘いかくほまきくく　　まのく

尼市所の新比知りまの古の花
楠の石くもなくく　　まの藤　　う那
五月のくや　　里くく　　まの藤　　まの藤
楓　　まの藤　　まの藤　　まの藤　　まの藤
所車乃おまきく　　まの藤　　まの藤
盗人のく　　まの藤　　まの藤　　まの藤
虫く　　まの藤　　まの藤　　まの藤
傾城も佛のく　　まの藤　　まの藤

糸

湖をさききりし糸や 舟の毛は
目くまらぬや 切巻の紙手よ 深の風
しよつとや ちりちりし 遠入りのひら
晴籠や 舟にそよよと 吹く
湖に舟ありぬけや ちりちりし
あきりしに 舟極まや 舟も 船のみ
船も 舟も 足おしりし ちりちりし 吹

糸は ちりちりし 舟の毛は
目くまらぬや 切巻の紙手よ 深の風
しよつとや ちりちりし 遠入りのひら
晴籠や 舟にそよよと 吹く
湖に舟ありぬけや ちりちりし
あきりしに 舟極まや 舟も 船のみ
船も 舟も 足おしりし ちりちりし 吹

葦一物や 淀老の 乃々々 本のお
誰人の 見ゆ御 一馬や 后の月
杉空々 一藤是々 膝うら
り 縁や 空々々 入 海の果

冬

本かろ 水々々 馬一 皆うけ 時の水
漱々々 空々々 川 空々 網代也
と 空 空々 我ハ 唯々 炬燵う 酌

雪れり やう 矢い 空々 雛子 一 ぬ
雪のり や 海のと 水 空々の 雪
空々 雪々 空々 や 福り 世ら 空々 空々
臍ハ や 空々 空々 空々 谷川也
空々 空々 空々 や 空々 空々 角空 師
空々 空々 空々 空々 空々 空々 空々

追善

周義

あけくさ風を白蓮の花

入り添くく照る月

杜影

栞庇ちひさねの薫くけ

才朗

あすも物を引ひかけり

文常

春をてえ娘人のやりりき

可中

草一の芽出を酒と種りや

時笑

世間をいまやぬ雨の降人々を

楚江

さう良て鈴ううと佛さる

明

四五枝のさ座吹まゝの蛇の湯

影

る妻うつくわのあしり

義

妹り蟲を轉んとて我は六巻うひ

明

何とわりのひり下弦とぬる夜

江

奇燈の月よ芒のさしをあて

義

空海の手こぼしをいかりのさ

影

角力なき二つの初冬うらん
まてあつしとて破と高まり
あやみけあはるの中よりめりき
水子じくハハのうけうふ

江 明 影 義

手向任到來

麻うりて己り少家の月夜に
六月もるの海は表まき
あつりた葉をうきまほそり
異つりや古きたのら車牛
遠く高やひまは悟る候もゆ
あつり人とあま研や土用干
松のまき妙法をうきあつり
あつりや花の中まはあつり

杜 彰
寸 明
文 帝
楚 江
架 橋
有 方
宗 古
二 水

ゆつろくくくや月代の色きくく
花吹雪くく病の董乃一きけり 在り 呂兆

松原より新御くくくくくく 千松

花夢いくくくくくくくくくく 花夢

牛馬の音くくくくくくくく 踏董

良梅のくくくくかやきくく月 雪渡

苗代くくくくくくくくくく 梅牛

くくくくくくくくくくくく 布雲

くくくくくくくくくくくく 朴所

くくくくくくくくくくくく 百亭

くくくくくくくくくくくく 亦權

くくくくくくくくくくくく 一甫

くくくくくくくくくくくく 他力

くくくくくくくくくくくく 雁路

倭^{こゝろ}の諸^{もろ}の聲^{こゝろ}の社^やの海^の 奇鳥

屋^や崎^やね^ハの音^{あり}の蝶^{のみ} 午貝

雪^{うしろ}の里^{はら}の^{うしろ}の^{うしろ}の^{うしろ} 子徳

脱^{はな}の^{はな}の^{はな}の^{はな} 吾友

水^{みづ}の^{みづ}の^{みづ}の^{みづ} 夏幽

朝^{あさ}の^{あさ}の^{あさ}の^{あさ} 全

五月^{ごがつ}の^{ごがつ}の^{ごがつ}の^{ごがつ} 佩之

水^{みづ}の^{みづ}の^{みづ}の^{みづ} 岐山

木^きの^きの^きの^き 何木

女^にの^にの^にの^に 才町

三^{さん}の^{さん}の^{さん}の^{さん} 三枝

昔^{むかし}の^{むかし}の^{むかし}の^{むかし} 二昔

時^{とき}の^{とき}の^{とき}の^{とき} 鷺秀

習^{なま}の^{なま}の^{なま}の^{なま} 時習

朴^{うす}の^{うす}の^{うす}の^{うす} 朴臺

おろしあふかりそ舟のきりしと 蘿道

月をわりのひんををひいた大桶水 理玉

出たんま八月涼のま破敗屋 應屈

鷹は師敵を奪くも海をい 南河路 枯上

色くのむ言くく 長岡 新樹蔭 飛蟻

渡く鳴きもハあくく 山室 磯くぬ 大通

あまよひ 大野田 ちのちのちの秋 自酬

ま海きりや海きり所も剛の色 四市連 時笑

蓮の香のゆあついにむく夜もも 眠五

卯花よ 三求 ちをちをちを月う物

小山と尾と 宗古 ちのちのちのちのちのち

葉のた 古友 ちのちのちのちのちのち

と 李東 ちのちのちのちのちのち

雨の夜も逢坂まては月夜也 雲出 青川

涼しくも疾く訓えん 松坂 爲徳

石室あつて又あそびのま向山 神都 竹之羽

伊ハ好くは月ハ入るる 瀧石部 あそ

杉風もあそびもあそび 義仲寺 祐昌

西向く涼む解ゆらうら 孝子 重厚

杉村や叶ると念もあそび 孝子 可中

あそびもあそびもあそび 周義

花鳥乃詠かたを懐く月の光へ

雲の且と福れをえり月出な

大年哉 孫の孫小おは法癖の

遣竹をわけり小懐か

進慕もあそび中志り

享和元辛酉夏

周義

謹識



蕉
門
書
肆
京
都
橋
屋
沼
兵
衛
梓
行

